

一、足羽川ダム計画(案)について

(一) 河川整備基本方針と河川整備計画

九頭竜川水系の「河川整備計画」を策定するにあたり設置した九頭竜川流域委員会の第三十一回委員会において、河川整備基本方針と河川整備計画に関して、国土交通省は次のように説明しました。

「河川整備基本方針」とは、長期的な河川整備の基本となるべき方針を示すもので、「河川整備計画」は「基本方針」を受けて当面二十～三十年間に実施する具体的な河川の整備を定めるものです。

九頭竜川水系河川整備基本方針(平成十八年二月十四日制定)では、足羽川の川沿い地域を一五〇年に一回の確率で発生する規模の洪水から防衛するため、足羽川天神橋地点での基本高水のピーク流量を「 $1,600\text{m}^3/\text{s}$ 」とし、このうち流域内の洪水調節施設で受け持つ流量を $800\text{m}^3/\text{s}$ 、河道整備で受け持つ流量を一、 $800\text{m}^3/\text{s}$ とすることにより、洪水を安全に流下させることとしています。

(二) 足羽川ダム計画(案)と他の治水対策案との比較検討について

流域委員会、福井県議会でも議論のあったダムと他の治水対策案との比較検討について紹介します。

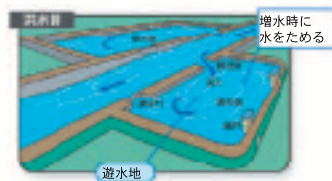
河川の洪水調節施設としては遊水池やダムがあり、河道整備としては河床掘削や引堤等の河川改修が考えられます。

河道外で処理する方法

遊水池

河川床が増加した時、その洪水の一部を流入して下流の洪水冠水を防ぐために、まとまった平地が必要となります。

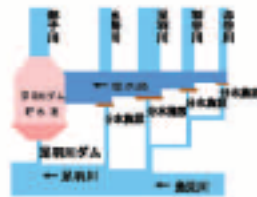
足羽川では、開発を農地に新たな土地利用制限が加わる、住宅地に隣接して異種業が営まれる、主要道路の嵩上げが必要となる等の社会的影響を及ぼします。また、熟慮を要する地域住民への合意を得るために長期の時間を要することが予想されます。



【遊水池】	事業概要	主な影響
容量	約1,400万 m^3	用地買収: 約50ha
面積	約440ha	家屋移転: 約440戸
平均湛水深	約3.5m	事業所等移転: 約120箇所
		道路嵩上: 国道150号線他4路線

ダム

足羽川の支流である獅子川に足羽川ダムを建設し、ダムと導水路で洪水調節を行い、ダムから下流の洪水量を低減させます。その効果は下流の九頭竜川(足羽川)まで及ぶことになります。足羽川ダムの建設により家屋移転が伴います。

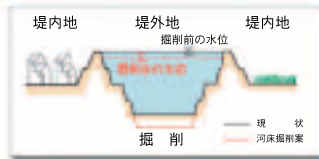


【ダム】	事業概要	主な影響
事業費	約1,500億円	用地買収: 約95ha
ダム	高さ約96m	水没等移転戸数: 約50戸
	総貯水容量約2,870万 m^3	
導水路	4本	

河道内で処理する方法

河床掘削

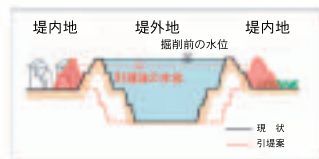
掘削計画に基づき、川床を2m程り下げる事業を現在実施中ですが、これだけでは蓄積の対策としては不十分です。このため、さらに足羽川下流区及び日野川を流る下流河川の河床掘削が必要ですが、掘削残土の処理や取水確保・橋梁の改修、取水用上による水利用への影響対策などが必要となります。



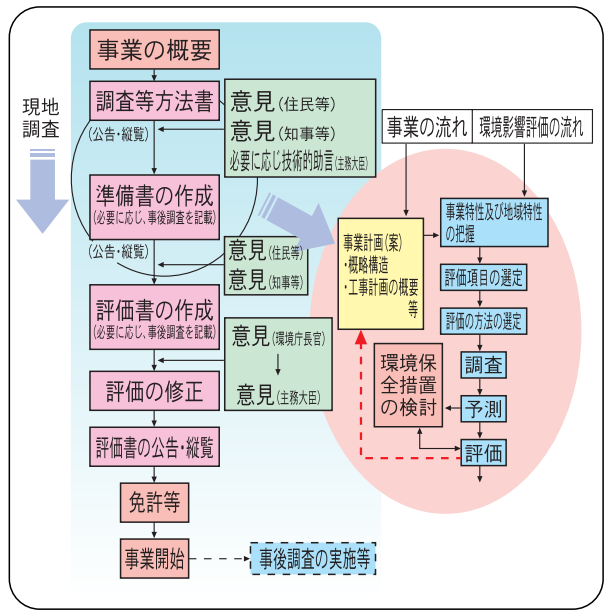
【河床掘削】	事業概要	主な影響
足羽川	激特事業計画河床から約1.5m掘削、延長約5km	掘削土量: 約1,550万 m^3
日野川		橋梁架替: 17橋
九頭竜川	基本方針河道から約1.5m掘削、延長約4km(日野川)、約15km(九頭竜川)	潮止堰: 1基
		家屋移転: 約340戸

引堤

日野川合流点から上流の区間において引堤が必要で、これに伴い、掘削残土の処理や橋梁の嵩上げが必要。さらに数百戸の家屋移転が必要となり、多大な影響を及ぼします。



【引堤】	事業概要	主な影響
事業費	約2,000億円	掘削土量: 約200万 m^3
足羽川	引堤幅約35m引堤区間約5.2km、延長右岸約3.9km、左岸約1.7km	築堤土量: 約30万 m^3
日野川	低水路拡幅	橋梁架替: 12橋
		用地買収: 約24ha
		移転家屋等: 約600戸



二、流域委員会各委員のご意見

足羽川ダム計画(案)に対して流域委員会の各委員から次のような意見等がありました。

《規模関係》

- 整備計画と基本方針のマッチングが必要で、スムーズな摺り合わせが求められている。
- 将来の気候変動のこと等を考えると基本方針対応の施設はリスクヘッジになる。
- ダムは段階整備はしない施設である。ダムを複数整備するのなら段階的にとらう考え方もあるが、一カ所であれば段階整備はなく造るか造らなつかのどちらかである。
- 二、四〇〇m/sと二、五〇〇m/sとで実績を目標とすることが望ましい。
- 二、六〇〇m/sで行って良いかとの不安があるが、

気象に対する不安もあり、規模自体を反対するものではない。次の世代に禍根を残さぬようにして欲しい。

• 今後のデータを踏まえながら、安全の確保に向けては、規模を小さくして他の方法も取り入れながら実現したかどうか。

《環境関係》

• モニタリングの実施を整備計画の中にしっかりと記載してほしい。

• これまでのダムは開発主体、これからは、地域の文化・環境・生命をどうするかを自然再生促進法の精神に則り考えていく必要がある。

《その他》

• ダムに賛成、反対ではなく、流域委員会でのような議論があつたか含めて説明会の中で住民に伝えることが大事。

三、県議会での議論

九頭竜川流域委員会において、国に対し河川整備計画の原案の作成が委ねられ、県民の注目が集まる中、福井県議会二月定例会が、二十四日間の会期で二月二十一日開会され、活発な論戦が繰り広げられました。

以下に代表質問、一般質問、土木常任委員会、予算特別委員会での主なやりとり(要旨)を紹介します。

《位置、目的、規模に関する質問》

• 流域委員会で出された意見や近年の異常な気象変動や手戻り工事費を考慮した場合、その位置、目的、規模について所見を伺う。

《答弁》

• 位置について、流域委員会においても、池田サイト

が適当であると確認されたところであり、県としても池田町の意見を十分聞いていく必要がある。

• 目的について、平常時は水を貯めない治水専用ダムとすることで流域委員会でも意見の一致が見られたところであり、適当でないかと考えている。

• 今議会での議論や住民意見を充分聞いた上で整備規模等について意見の方向付けをしていきたい。

《コストに関する質問》

• 当面二十年〜三十年で整備するダム規模については一五〇年に一回の洪水に対応できるダムと約八十年に一回の洪水に見合うダムのおおの建設コストと県負担額はどのくらいか。

《答弁》

• 一五〇年に一回の洪水に対応できるダム本体と導水施設で約一千億円、約八十年に一回の洪水に見合うダム本体と導水施設で約七百億円〜八百億円と聞いている。

• 県の負担については、河川法上は二割の負担であるが、後進地域の開発にかかる特例でさらに負担の軽減が見込める。

《かさ上げした場合の長所・短所の質問》

• 約八十年に一回の洪水に見合うダムでは、かさ上げ時に手戻り工事費があるが、長所・短所は何か。

《答弁》

• ダムを一度建設した後に、将来かさ上げする場合には、手戻り工事費の他、家屋移転や用地買収が一度に実施できないことから地元の方々の負担等に配慮する必要がある。

• 一方で、財政負担も少なく、将来自然条件、社会条件が大きく変化した場合には、柔軟に対応できる長所がある。

《ダム以外の治水対策案に関する質問》

- 費用対効果について、他の治水対策案との比較を検討すべきではないのか。
- 堤防を強化して、余裕高(1m)を使って流せば、工事期間も短縮でき、コスト面でもメリツトがあるのではないのか。

《答弁》

- 治水対策の選定に当たっては、経済性に加え技術的な妥当性や地域の影響も重要な要素であり、足羽川ダムは流域委員会において洪水調節施設としての妥当性が確認されている。

- 余裕高は風浪や流木の影響等から堤防を完全に保つ上で必要なもので、そこに流量を見込むことは河川計画上でできない。

さらに、三月十七日の本会議において、「足羽川の下流域住民の生命・財産を守るため、部子川サイトに足羽川ダムの建設を早期に取り組むよう請願する。」という趣旨で福井市、三国町、春江町、坂井町の下流四市町から提出されていた足羽川ダムの早期建設を求める請願が賛成多数で採択され、県議会としてのひとつの意思表示がなされました。

このように、県議会での議論や下流受益地からの請願など、福井豪雨から一年半が経過し、足羽川ダム建設に関する機運も高まっております。

今後、県議会での議論を踏まえ、住民意見を充分お聞きした上で、県としての意見を固めていきたいと考えております。

《皆様の疑問にお答えします。》

(質問) 激特事業を行えば、福井豪雨は、安全に流せるのではないですか。

(回答)

福井豪雨と同じ条件の雨なら激特事業を行えば、流すことは可能です。

それは足羽川合流地点の日野川水位がたまたま低かったからに他なりません。

(質問)

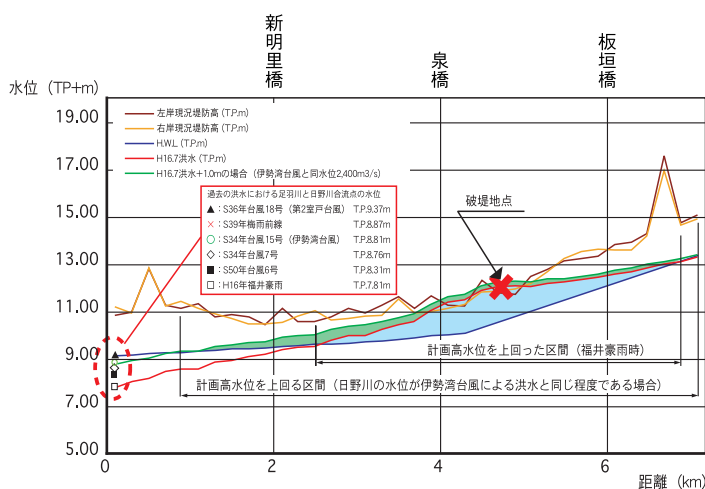
福井豪雨時の足羽川合流地点の日野川水位は、どうして低かったのですか。

(回答)

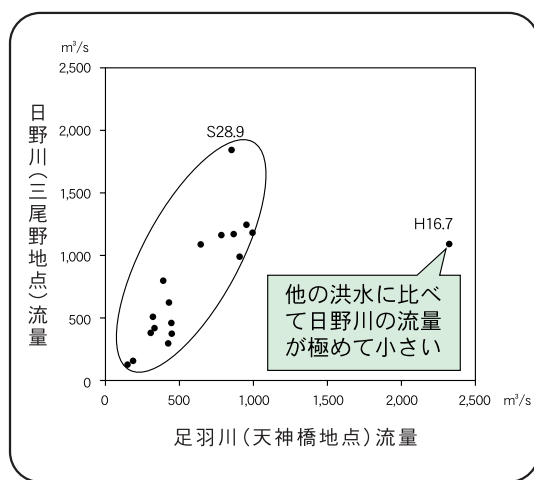
平成十六年七月に発生した福井豪雨の大きな特徴として、足羽川流域に極めて集中した降雨による洪水であったことから日野川では流量が少なく水位が低い状況でした。

過去の主な洪水では足羽川と日野川の流量には明瞭な相関関係が見られ、足羽川が洪水の時には日野川でも同様の規模の洪水が生ずることが多いという特徴があります。

福井豪雨の時は、日野川の水位が低い状況でしたが、足羽川合流地点の水位が仮に昭和三十四年の伊勢湾台風による洪水と同じ程度の水位であったとすると、計画高水位を上回る区間が長くなり、さらに被害が大きくなっていたと想定されます。従って整備計画策定にあたっては、このような特異な洪水のみにとらわれることなく、足羽川が洪水時には日野川もある程度の出水であることを想定し、治水対策を考える必要があります。



福井豪雨時の河道での水位縦断面図



足羽川・日野川の流量相関図

【共同発行人】 ◎ご意見、ご感想等、みなさんの声をお寄せ下さい。

国土交通省近畿地方整備局足羽川ダム工事事務所
〒918-8239
福井市成和1-2111 ポラリスビル
TEL(0776)27-0642 附 FAX(0776)27-0643
http://www.kkr.mlit.go.jp/asuwa/index.html

福井県土木部河川課ダム建設・足羽川ダム対策室
〒910-8580
福井市大手3-17-1 県庁
TEL(0776)20-0486 FAX(0776)20-0696
http://info.pref.fukui.jp/kasen/index.html

福井市建設部河川課
〒910-8511
福井市大手3-10-1 市役所
TEL(0776)20-5492 FAX(0776)20-5745
http://www.city.fukui.fukui.jp/siyakusy/kasen/